

「横地分類(改訂大島分類)」

「移動機能」、「知能」、「特記事項」の3項目で分類し、以下のように表記する。

例：A1-C, B2, D2-U, B5-B, C4-D

知能レベル						
E6	E5	E4	E3	E2	E1	簡単な計算可
D6	D5	D4	D3	D2	D1	簡単な文字・数字の理解可
C6	C5	C4	C3	C2	C1	簡単な色・数の理解可
B6	B5	B4	B3	B2	B1	簡単な言語理解可
A6	A5	A4	A3	A2	A1	言語理解不可
<特記事項> C: 有意な眼瞼運動なし B: 盲 D: 難聴 U: 両上肢機能全廃						
移動機能レベル						
戸外歩行可	室内歩行可	室内移動可	座位保持可	寝返り可	寝返り不可	

キリスト教の伝道師であり、聖書をピダハン語に翻訳することを使命として、アマゾンに家族とともに赴いたとのこと。また、言語学も専攻しており、その師はチョムスキーとのこと。30年ピダハン社会のなかで生活し、その言語を習得する過程でピダハンの世界観も熟知するようになり、そこで、ピダハンの精神世界とキリスト教の神は相容れないと悟り、聖書の翻訳は放棄したとのこと。そうした過程で、彼自身のキリスト教の信仰も失っ

たと記されています。著者の家族はその信仰により結びついてきたため、信仰喪失の告白を機に、離婚し、子どもはすべて彼から去っていったとのこと。前述したように、生成文法を否定する論文を書き、言語学の師からも離れたといったようです。学は現場から生まれるとの信念を私は持っています。著者こそ究極の現場主義の体現者です。彼は現場から真理を得た代わり、失ったものは大きかったかもしれせん。

あすかの 日常生活紹介

古橋 裕絵

あすかは、入所者11名(横地分類ではA1-Cが3名、A1が8名)のゾーンです。利用者一人ひとりのちょっとした表情の変化や身体の動く様子をみて、どんな事が心地良く楽しいと感じるのかを考え活動を提供しています。A1のAさんは、声かけをしながらのタッチングに対して口をもぐもぐ動かすことや手を動かすことがよく見られます。リズムを楽しめる活動では、音源の方に顔を向け、意識を向けるような様子が見られはじめています。そんなAさんの日常活動では、簡単なリズムや手あそびうたを提供しています。木魚とベルを使用して、トントントンチンと音を変えてリズムを鳴らすと、ベルの音でより大きく目を開けます。また、顔を音源の方に向けてよく聴いている様子が見られます。手遊び歌では、ひげじいさんの「トントントン」のリズムに合わせて腹部に優しく触れると、口をもぐもぐさせ、腕の上に伸ばし活発に手を動かしていま

す。リズムの変化に気づき、意識がより集中しているように感じます。



A1のBさんは、職員の声かけに対して眼をキョロキョロ動かし、やさしい語りかけや歌いかけをしながらのタッチング活動をしています。Bさんはやさしい声で名前を呼ぶと、声がする方向に眼をキョロキョロ動かし、聞こえてきた声を探っているような様子が見られます。また、タッチングでは頭や胸をなでると「おや?」と何か感じたような表情をして、職員がいる方向をチラチラ見るような目の動きが見られます。声かけやタッチングに、より聴きたい、注目したい気持ちを感じます。今後、利用者一人ひとりの活動の時間を大切に、人のぬくもりや、やさしさが伝わるような関わりを考え提供していきたいと思えます。

だいちの 日常生活紹介

川上 恵

だいちでは15名が生活しています。横地分類ではB4-Bが1名、B6が3名、A5が2名、A6-Dが1名、A6が8名に分かれます。A6のAさんは突然声をかけられたり触れられたりすると過敏に反応して警戒するところがありますが、ゆったりと話しかけ手やからだに優しく触れると良い表情になります。日常活動では、タッチングのリズムを感じたりリズムに合わせたりすることで満足感が得られるような活動を行っています。「はじめますよ」と声をかけて職員が手を出して見せると、動きを止めてじっと職員を見て待っている様子があります。手遊びうたの『お寺の和尚さん』を歌いかけながら一定のリズムでテンポ良く肩に触れていくと、それに合わせるようにリズム良く肩を前へ出し、だんだんと表情が良くなっていきます。「めがでてふくらんで、はながさいたら…」のところは体に触れず歌いかけるだけにします。よく歌いかけを聴き職